

NCR は6名の不当解雇を撤回せよ!

汚名を着せられたままでは、子どもに説明できない

七月十七日東京地裁に提訴

JMIUエヌシーアル支部は、組合員六名の「懲戒解雇」は不当として、七月十七日東京地裁に地位保全仮処分」の申し立てを行いました。

NCRは、付属品販売部門の全営業マンに対し、組織ぐるみで「実績をつくらないと首になるぞ」「今後リストラが起ころぞ!」等の脅しをかけ、昨年の決算処理のために「売上計上の水増し」を迫り、今度は一転「不正を働いた」と懲戒委員会にかけ、五月十一・十二日には、「自己都合の退職に合意すれば懲戒はしない。十三日までに返事をしろ」と部門の半数以上の社員に退職を迫ったのです。

七名が組合に加入闘いに立ち上がる

「会社の指示・命令で無理やり不正をやらされ、汚名を着せられたままでは、子供に説明できない」と七名が組合に加入して闘いに立ち上がりました。

また一方で、六名の営業マンが「つくづくこの会社がイヤになった」と辞めていきました。

日本NCRは、不正を知っていたのでは??

米国本社の調査で発覚は不自然

NCRは、当事者らの不正で〇八年度決算が監査法人の承認が取れず、著しく信用を傷つけられたと、懲戒理由を述べています。また会社の関与については、あくまでもその部門内の問題との立場です。

しかし会社は、昨年九月には同部門売掛金の異常に気がつき、監査法人と調査をしています。また常勤監査役は同部門出身者でした。でも結局〇八年度の決算を役員会で承認しています。

「当事者達が報告を遅らせたたり、隠蔽工作をしたので不正を見抜けなかった」と言っています。しかし、その後の米国本社の調査では、一発で不正が明るみになりました。あまりに不自然です。

背景にはリストラがあるのでは??

日本NCRは、この二十年近くリストラを繰り返し、当時四〇〇〇〇名いた社員はいまや八〇〇名を切ろうとしています。この部門も〇四年に六十五名いた社員が事件前には、三十六名まで減っていました。職場では、米国型システムの導入で「またリストラがあるのでは?」と噂がたっていました。

何故か工本部長の処分に消極的なNCR 自主退職扱いか???

NCRは頑として組合員六名の解雇を撤回しませんが、この部門の前責任者工本部長の処分には、「不正を指示した証拠が無い」と及び腰。懲戒解雇はしていない? また営業マンに直接不正を指示した前部長の一人が、七月には関連会社に入社したと言われています。